

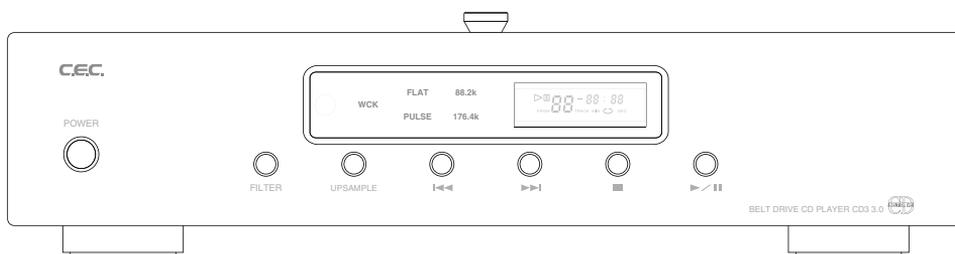
BELT DRIVE CD PLAYER

CD3 3.0

取扱説明書

この度は、CECベルトドライブCDプレーヤーCD3 3.0をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機の特徴を正しくご理解いただき、末永く安全にお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。

外装箱や梱包材は再輸送の際に必要ですので、保証書や取扱説明書と同様に大切に保管してください。



CEC

本機の特徴.....	2
安全上のご注意.....	3
使用上のご注意.....	5
コンパクトディスクについて.....	6
付属品.....	7
主な仕様.....	7
フロントパネルの機能.....	8
CDドアの内部.....	9
リアパネルの機能と接続.....	10
リモートコントロールユニット.....	11
デジタルフィルター.....	12
アップサンプリング.....	13
ディマー（ディスプレイの明るさを切り替える）.....	13
基本操作.....	14
プログラム再生.....	16
ベルトのメンテナンス.....	17
ベルトドライブCDお取扱のご注意（まとめ）.....	18
お手入れの仕方.....	18
故障かな？と思ったら.....	18
保証とアフターサービス.....	19

- CD3 3.0は、ディスクとピックアップをベルトで駆動するダブル・ベルトドライブ方式のメカニズムを採用することにより、モーターの発生する機械振動や電磁ノイズが信号読み取りに与える影響を効果的に遮断します。ベルト駆動方式に欠かせない高精度CDスタビライザーは、慣性モーメントが極めて大きい直径12cmを採用。ベルト駆動と大きな慣性が生み出す滑らかで安定したディスクの回転は、高音質再生に大きく貢献します。
- ディスクを駆動するスピンドル用ゴムベルトは、いつでも状態を確認することができて、伸びてしまったら交換もできる、利便性に優れたメカニズム構造を採用しています。また、ピックアップを駆動するフィード用ベルトも、確認窓からその状態の一部を視認できます。
- デジタルからアナログ信号への変換には、ESS社のフラッグシップモデル SABRE PRO シリーズより、32bit 対応ハイパーストリームDAC ES9028PROを採用。高次元のダイナミックレンジと高調波歪み率を確保することで、ステージの広がりのみならず奥行きや空気感もリアルに再現します。デジタルフィルターは、周波数特性の優れたフラットと、リングングを抑え高域での自然な減衰特性をもつパルス切り替えが可能です。
- ディスクから読み取るCD規格44.1kHzの音楽信号を、ハイレゾ領域へと昇華するアップサンプリング機能を装備しています。2倍の88.2kHzまたは4倍の176.4kHzへ拡張し、音の変化をご体感ください。
- ワードクロック入力を備えています。外部の高精度クロックを利用することにより、さらなる高音質が期待できます。
- 外部のD/Aコンバーターとの接続には、バランス型のAES/EBU、同軸型のCOAXIAL、そして光型のTOSLINK端子を備えています。同時にワードクロック入力を活用してシステムのクロックを統一することにより、ジッターの軽減が可能となります。
- 視認性に優れたディスプレイは、リスニングシーンに合わせ輝度を3段階に切り替えられます。

安全上のご注意

製品を安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

絵表示について

この取扱説明書には、いろいろな絵表示が記載されています。これらは、製品を安全にお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。記号の意味をよくご理解の上、本文をお読みください。

記号の意味



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡または重傷を負う可能性があります。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、ケガをしたり、周辺の家財に損害を与える可能性があります。

注意を促す記号



一般的な注意



感電注意

してはいけない行為(禁止行為)を示す記号



禁止



分解禁止

必ずしてほしい行為(強制、指示行為)を示す記号



電源プラグをコンセントから抜く



一般的な強制



警告!

万一、次のような異常が起きたら ...

- ・煙が出たり、変なおいや音がある。
- ・機器の内部に異物や水が入った。
- ・落としたり、キャビネットを破損した。

すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。

販売店または当社サービスセンターに修理をご依頼ください。



- ・電源ケーブルを傷つけない。
- ・電源ケーブルの上に重いものをのせたり、ケーブルを本機の下敷きしない。
- ・電源ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。

ケーブルが破損すると、火災、感電の原因となります。万一、電源ケーブルが傷んだら（心線の露出、断線など）、販売店または当社サービスセンターに交換をご依頼ください。



- ・電源プラグにほこりをためない。

電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災、感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。

- ・機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない。

内部に水が入ると、火災、感電の原因となります。



警告！



- ・表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する。

この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧以外では使用しないでください。火災、感電の原因となります。



- ・この機器のカバーは絶対に外さない。

カバーを開けたり改造すると、火災、感電の原因となります。内部の点検、修理は販売店または当社サービスセンターにご相談ください。



- ・この機器のカバーを開けたり、内部に手を入れない。

この表示部分に手を近づけたり触れたりすると、感電やけがの原因となります。



注意！



- ・ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。
- ・湿気やほこりの多い場所に置かない。
- ・調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気があたる場所に置かない。

火災、感電やけがの原因となることがあります。

- ・電源コードを熱器具に近づけない。

コードの被ふくが溶けて、火災、感電の原因となります。

- ・電源プラグは、異常が発生した時にすぐに抜けるような場所にあるコンセントに差し込む。

- ・濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

- ・電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。

コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- ・旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。



- ・お手入れの際は安全のため、電源プラグをコンセントから抜く。

感電の原因となることがあります。

- ・移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

使用上のご注意

① 電源電圧はAC100V

本機は、定格電圧100Vでご使用ください。

② 他の機器と接続するとき

他の機器と接続するとき、または接続を外すときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

③ 本機の電源を入れるとき、切るとき

- 電源を入れるときは、本機の電源を先に入れてから、アンプやD/Aコンバーターの電源を入れてください。
- 電源を切るときは、アンプやD/Aコンバーターの電源を切ってから本機の電源を切るようにしてください。

本機の電源を入れたり切ったりするときに発生する微小ノイズがアンプで増幅されて、突然大きな音が発生したり、スピーカーや他の機器を破損する恐れがあります。ご注意ください。

④ 光学式ピックアップ(半導体レーザー)

光学式ピックアップは、CDプレーヤーの性能を決める重要な部品のひとつです。レンズ部分に指などで触れないようにしてください。レンズの表面をきれいに保つために、ご使用にならないときでも、CDドアはいつも閉めておいてください。

⑤ CDスタビライザー

CDをホールドするCDスタビライザーは指定のものをご使用ください。変形してバランスを崩したり、他の物を破損する可能性がありますので、落としたり投げたりしないでください。高価な精密部品ですでお取り扱いには十分ご注意ください。

⑥ 取り扱いはていねいに

スイッチやツマミ、CDトレイ、ターンテーブル、キャビネットなどに無理な力を加えることは避けてください。

⑦ 設置場所について

次のような場所で長時間ご使用になりますと、音質の悪化や故障などの原因となります。ご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度35℃以上)、または温度の特に低い場所(周囲温度10℃以下)では、製品の正常な機能を維持できない場合がありますので避けてください。
- 湿度の高い場所(湿度90%以上)では金属部分にサビが生じたり故障の原因となります。
- ほこりの多い場所はスイッチなどの接触不良や雑音等の発生原因になり、性能を損なうことがあります。
- その他、トランスやモーターの近くの設置は誘導ハムを拾う原因となりますので、離して設置してください。また、振動の多い場所も避けてください。

音質や性能を最大限に発揮させるためにも、オーディオ専用ラックを使用されることをお奨めいたします。

⑧ 水に濡れたら

万が一雨がかかったり、花びんなどの水を本機にこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。この状態で電源を入れた場合、感電の恐れもあり危険です。また故障の原因となりますのでご注意ください。

⑨ 落雷に対する注意

落雷の恐れのあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜いてください。

⑩ 結露現象について

冬期などに本機を戸外から暖房中の室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると結露が生じ、製品の性能が十分引き出せなくなることがあります。

このような場合は、結露の程度にもよりますが、1～2時間そのまま放置し、本機を室温に保つようにしてください。結露は徐々になくなります。

⑪ 演奏を聴くエチケット

音楽を聴くときは、他の人や近隣の迷惑にならないように気を配り、お互いの快い生活環境を乱さないように、音量を上げ過ぎないように十分注意しましょう。

ディスクの取り扱い方

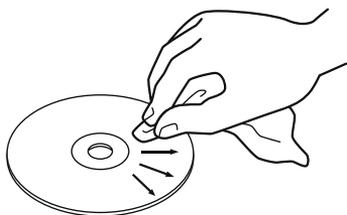
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。



- ディスクは、必ずレーベル面を上にして、CDドア内部にセットしてください。

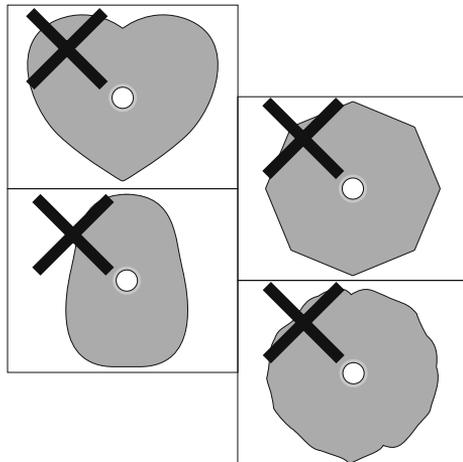


- 信号録音面(レーベルがない面)に傷、指紋、汚れなどがあると、再生時にエラーの原因となることがありますので、お取り扱いにはご注意ください。
- 信号録音面に汚れが付着した場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。ディスクはいつもきれいに清掃して保管してください。



- レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。
- 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には放置しないでください。
- 使用後のディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
- ディスクにはラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、故障の原因となることがあります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。

- ハート形や八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。



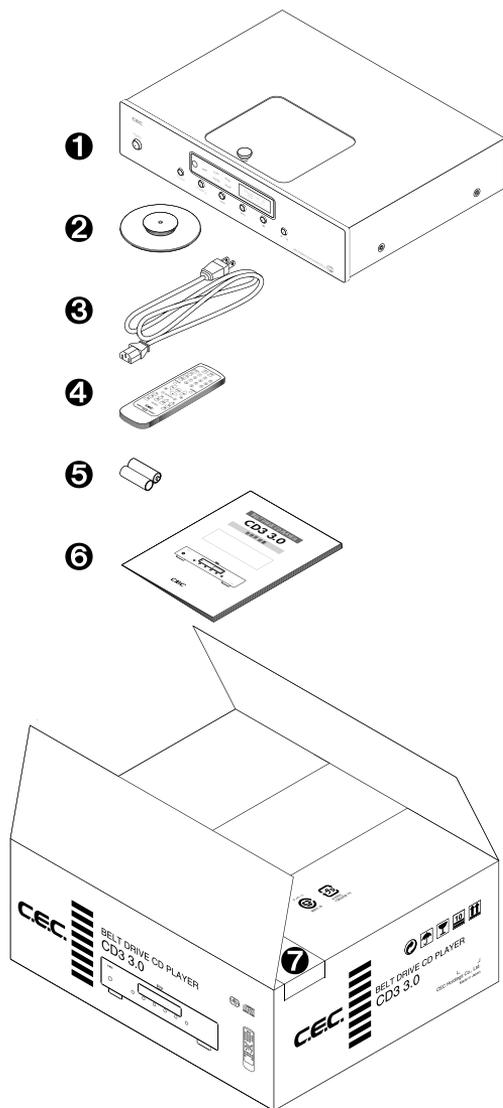
CD-R/RW ディスクの取り扱い

- 本機はファイナライズ済みのCD-R/RWの再生にも対応しています。
- ディスクのレーベル面に何か書き込むときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなど、先端の固いペンを使うと、ディスク面を傷つけて再生ができなくなる場合があります。

付属品

CD3 3.0の外装箱の中には、次のものが入っています。
最初にご確認ください。

- ① CD3 3.0本体
- ② CDスタビライザー
- ③ 電源ケーブル
- ④ リモコン
- ⑤ リモコン用単4形乾電池(2本)
- ⑥ 取扱説明書
- ⑦ 保証書(外装箱に貼付)



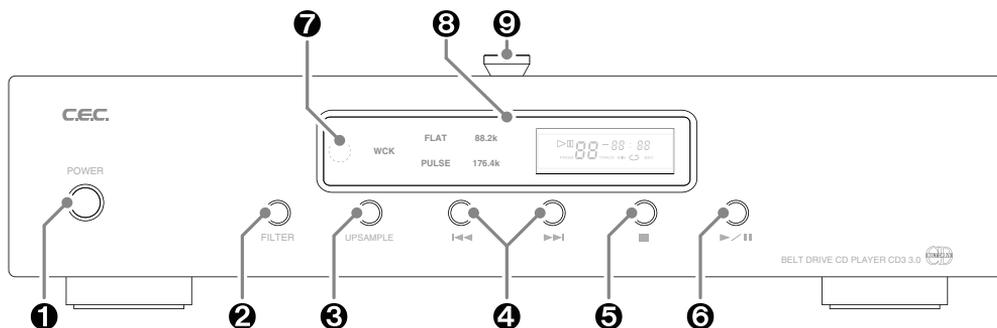
- 外装箱や梱包材は再輸送の際に必要です。保証書や取扱説明書と同様に大切に保管してください。
- 付属の電源ケーブルは本機専用です。他の機器には使用しないでください。

主な仕様

再生可能ディスク	一般音楽CD, ファイナライズ済み音楽用CD-R/RW
ディスク駆動	ベルトドライブ
ピックアップ駆動	ベルトドライブ
CDスタビライザー	直径約120mm, 質量約380g (真鍮製)
ワードクロック入力	BNC x 1 系統: 44.1kHz
アップサンプリング	24bit/88.2, 176.4kHz
デジタル出力 / サンプル周波数	AES/EBU x 1 系統: 2.5Vp-p/110Ω 44.1, 88.2, 176.4kHz / 2番ホット
	COAXIAL x 1 系統: 0.5Vp-p/75Ω 44.1, 88.2, 176.4kHz
	TOS x 1 系統: -21~-15dBm EIAJ 44.1, 88.2, 176.4kHz
DAC	ESS ES9028PRO x 1
デジタルフィルター	FLAT / PULSE 切替え
アナログ出力	バランス型XLR x 1 系統: 4Vrms / 2番ホット
	アンバランス型RCA: 1 系統 / 2Vrms
周波数特性	0Hz ~ 20kHz / ± 0dB (FLATフィルター)
S/N比	105dB, 1kHz/0dB
クロストーク	105dB, 1kHz/0dB
THD	0.0017%, 1kHz/0dB
電源	AC100V, 50/60Hz
消費電力	28W
外形寸法	約435(W) x 335(D) x 111(H) mm (ボタン, 端子, レッグ含む)
質量	約11.7kg (CDスタビライザー含む)
付属品	CDスタビライザー, 電源コード, リモコンRU-219, 単4形乾電池2本, 取扱説明書, 保証書
外観色	シルバー / ブラック

- 仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
- 製品の改良などにより、取扱説明書のイラストなどが実際と異なることがあります。

フロントパネルの機能



① POWER (パワー) ボタン

電源スイッチです。押すと本機に電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

電源を入れると、③ディスプレイの④CDディスプレイに“00:00”が点滅し、ディスクの有無の確認を始めます。数秒後、カチッとリレー音とともに、選択または機能する③ディスプレイの①ワードクロック、②デジタルフィルター、③アップサンプリング周波数が点灯し、操作できる状態になります。

ディスクがセットされている場合には④CDディスプレイに総曲数と総再生時間が表示され、ディスクがセットされていない場合は“no dISC”と表示されます。

また、CDドアが開いている場合には、④CDディスプレイに“OPEN”と表示されます。CDドアを閉めると、ディスクの有無の確認を始めます。

② FILTER (フィルター) ボタン

押すたびに、デジタルフィルターのフラット“FLAT”またはパルス“PULSE”に切り替わり、対応する③ディスプレイの②デジタルフィルターインジケータが点灯します。

選択したフィルターは、電源を入れ直しても記憶されています。

デジタルフィルターの詳細は、12ページを参照ください。

③ UPSAMPLE (アップサンプル) ボタン

CDから読み取る音楽信号のサンプリング周波数をCD標準規格の44.1kHzから2倍の88.2kHzへ、または4倍の176.4kHzへアップサンプリング(拡張)します。押すたびに、44.1kHz(デフォルト)⇒88.2kHz⇒176.4kHzの順に切り替わり、③ディスプレイの③サンプリング周波数インジケータに“88.2k”または“176.4k”が点灯します。

選択したサンプリング周波数は、電源を入れ直しても記憶されています。

アップサンプリングの詳細は、13ページをご参照ください。

再生中に切り替えると、音が途切れ、ノイズが発生したり、誤動作の原因となることがあります。切り替えは、再生を停止して、アンプのボリュームを下げてから行ってください。



④ ◀◀▶▶ (スキップ) ボタン

再生中に▶▶を押すと、次の曲にスキップして再生します。希望する曲番になるまで▶▶を続けて押してください。

再生中に◀◀を1回押すと、再生中の曲の頭に戻ります。それより前の曲を再生するときは、◀◀を続けて押してください。

⑤ ■ (ストップ) ボタン

再生中に押すと、CDの再生が停止します。

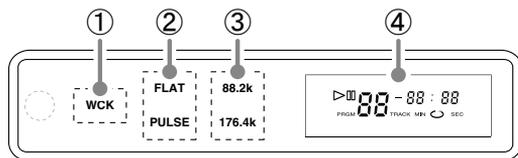
⑥ ▶/|| (プレイ/ポーズ) ボタン

再生を開始、または再生中の曲を一時停止します。一時停止を解除し再生を再開するには、もう一度押します。

⑦ リモート センサー

リモコンからの信号を受けるセンサーは、ディスプレイパネルの左端にあります。リモコンを正しくセンサーの方向に向けて操作してください。リモコンとセンサーの間に障害物があると正しくリモート操作が機能しないことがありますのでご注意ください。

⑧ ディスプレイ



① WCK (ワードクロック) インジケータ

外部のクロック発振器から出力される44.1kHzのワードクロックに同期しているときに点灯します。

② デジタルフィルター インジケータ

選択するデジタルフィルターのフラット“FLAT”またはパルス“PULSE”が点灯します。切り替えは、本体の②FILTERボタン、またはリモコンのD.FILTERボタンで行います。

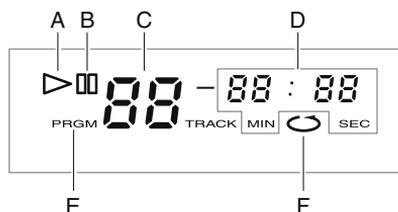
フロントパネルの機能(つづき)

③ サンプリング周波数 インジケータ

88.2k(Hz)または176.4k(Hz)へアップサンプリングしているときに点灯します。切り替えは、本体の③ UPSAMPLE ボタン、またはリモコンのUPSAMPLE ボタンで行います。

④ CDディスプレイ

ディスクをセットした状態で、総トラック数や総再生時間が、CD再生中は、トラック番号や曲の再生経過時間などが表示されます。



A. プレイ▶インジケータ

再生モードで点灯します。

B. ポーズ■インジケータ

ポーズ(一時停止)モードで点滅します。

C. トラックナンバー ディスプレイ

再生中のトラック番号を表示します。

D. タイム ディスプレイ

経過時間、残量時間、総残量時間、総経過時間を表示します。

E. プログラム インジケータ

プログラム再生モードで点灯し、C1に曲順を表示します。

F. リピート インジケータ

リピートモードで点灯します。

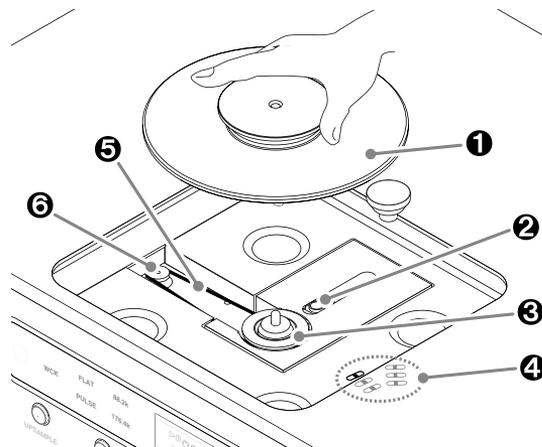
⑨ CDドア ノブ

手動で後ろへスライドさせてCDドアを開き、ディスクやCDスタビライザーをセットします。閉めるときは、手前に引きます。

CDドアが開いているときは、⑤ディスプレイの④CDディスプレイに“OPEN”と表示されます。

CDトレイ内部をきれいに保つため、ディスクやCDスタビライザーを出し入れするとき以外は、CDドアはいつも閉めておいてください。

CDドアの内部



① CDスタビライザー

ディスクをホールドする付属のCDスタビライザー(直径12cm, 質量380g)です。

セットするときや取り外すときは、上部の縁をしっかりと掴んで、水平を保ちながら垂直に上下移動するように、ターンテーブルの中心軸に着脱します。

真円やバランスを考慮した精密部品です。落としたり過度に圧力が加わると変形や偏重心が生じ、CDの読み取り精度や音質に影響します。お取り扱いには十分にご注意ください。

② 光学式ピックアップ

CDに記録された信号を読み取るピックアップのレンズです。きれいに保ち性能を損なわないようにするため、指などで直接触れないでください。また、使用しないときでもCDドアはいつも閉めておいてください。

③ ターンテーブル

ディスクをセットしてからCDスタビライザーを乗せます。CDドアを閉めると回転を始めます。

使用しないときなど、ディスクが無い場合でも、CDスタビライザーはターンテーブルに乗せておくことができます。

④ フィードベルトの確認窓

CDメカニズムのカバーに開く楕円形の小さな6つの窓を通してフィード(ピックアップ駆動用)ベルトを視認できます。

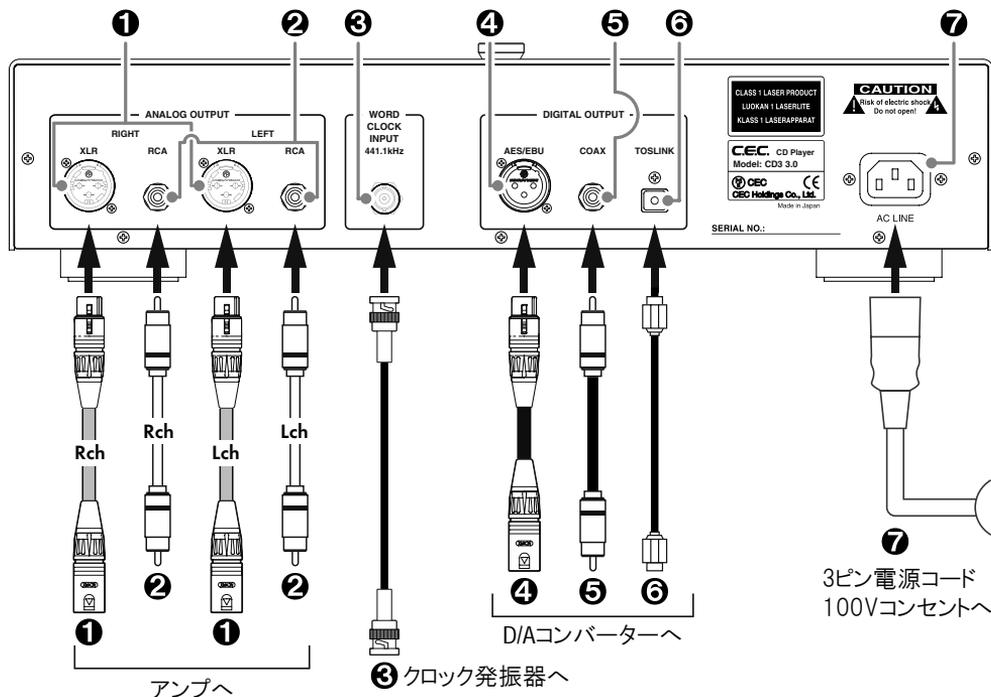
⑤ スピンドルベルト

ディスク駆動用の角型ゴムベルトです。日常的なメンテナンスは不要ですが、経年変化により張力が著しく低下すると、回転精度が低下してCDを正しく読めなくなります。ベルトの交換方法などは、17ページの「ベルトのメンテナンス」の項目を参照ください。

⑥ モーター プーリー

ディスク駆動用モーターのプーリーです。ディスク駆動用ゴムベルトが掛かります。

リアパネルの機能と接続



入出力端子への接続は、電源を入れる前に行います。電源を入れたまま行くと、誤動作の原因となることがありますので、必ず電源を入れる前に接続を完了してください。

アナログ出力

① XLR (バランス)

バランス型 XLR 出力端子 (1=GND, 2=Hot, 3=Cold) です。バランス型入力端子を備えたアンプと XLR3ピン - ラインケーブルを使用して接続します。バランス回路設計された本機の性能を十分に引き出すには、バランス型接続のご使用をお勧めします。

② RCA (アンバランス)

標準的なアンバランス型 RCA 出力端子です。RCA ケーブルを使用してアンプと接続します。

ワードクロック入力

③ WORD CLOCK INPUT 44.1kHz

外部のクロック発振器から出力される 44.1kHz のワードクロックを入力する端子です。75 Ω の BNC ケーブルをご使用ください。外部のワードクロックと同期 (を入力) しているとき、ディスプレイの “WCK” が点灯します。

デジタル出力

④ AES/EBU

バランス型 XLR デジタル出力端子です (1=GND, 2=Hot, 3=Cold)。AES/EBU (XLR) 入力端子を備えた D/A コンバーターなどのデジタルオーディオ機器と接続します。110 Ω の XLR ケーブルをご使用ください。

⑤ COAXIAL

同軸型のデジタル出力端子です。COAXIAL (RCA) 入力端子を備えた D/A コンバーターなどのデジタルオーディオ機器と接続します。75 Ω の同軸ケーブルをご使用ください。

⑥ TOSLINK

光 (オプティカル) デジタル出力端子です。角型 TOSLINK 光デジタル入力端子を備えたデジタルオーディオ機器と接続します。角型の光ケーブルをご使用ください。使用しないときは、キャップを戻しておいてください。

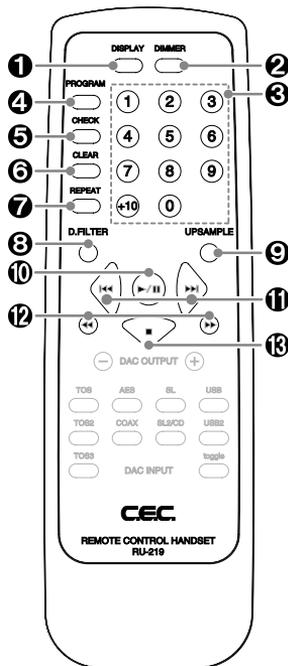
電源入力

⑦ AC LINE

付属の電源コードを接続し、ご家庭のコンセント (100V) に接続します。

ボタンの機能

①～⑫までのボタンは本機で機能し、その他のボタンはD/AコンバーターDA5とDA3EXや、CDプレーヤーCD5などを操作できます。ここでは、本機を操作するボタンだけを説明します。



① DISPLAY(ディスプレイ)ボタン

ディスプレイの表示を切り換えます。押すごとに、最初の曲番号と再生経過時間の表示から、その曲の残り再生時間⇒ディスク全体の残り再生時間⇒ディスク全体の再生経過時間へと表示が切り替わります。

●再生時間表示



●残量時間表示



●総経過時間表示



●総残量時間表示



※曲ごとの残り再生時間は、32曲目までは表示されますが、33曲目からは、“-”と“---”が交互に点滅します。
※プログラムとリピート再生中は、総残量と総経過時間は表示されません。

② DIMMER(ディマー)ボタン

ディスプレイの明るさを3段階{明るい(デフォルト)⇒消灯⇒暗い}に切り替えます。「ディマー」の詳細は、13ページをご参照ください。

③ テンキー

聴きたい曲をダイレクトに選択できます。また、曲をプログラムするときに使用します。

※10曲目以降は+10を押してから、20曲目以降は+10を2回押してから0～9を押します。

④ PROGRAM(プログラム)ボタン

聴きたい曲を聴きたい順に32曲までプログラム(登録)し再生できます。詳細は16ページの「プログラム再生」の項目をご参照ください。

⑤ CHECK(チェック)ボタン

プログラムした曲と順番を確認できます。詳細は16ページの「プログラム再生」の項目をご参照ください。

⑥ CLEAR(クリア)ボタン

プログラムした曲を取り消します。詳細は16ページの「プログラム再生」の項目をご参照ください。

⑦ REPEAT(リピート)ボタン

全曲を繰り返し再生するとき、再生中または停止中に押すと、ディスプレイにリピートインジケータ(🔄)が点灯し、リピート再生モードになります。停止中のときは、プレイ/ポーズ▶/⏸ボタンを押してリピート再生を始めてください。



REPEATボタンをもう一度押すと、リピート再生モードはキャンセルされます。また、リピート再生中にストップ■ボタンを押すと、再生は停止し、リピート再生モードもキャンセルされます。

⑧ D.FILTER ボタン

デジタルフィルターのFLAT、またはPULSEを選択します。「デジタルフィルター」の詳細は、12ページをご参照ください。

⑨ UPSAMPLE(アップサンプル)ボタン

デジタル出力信号を88.2kHzまたは176.4kHzへアップサンプリングします。「アップサンプリング」の詳細は、13ページをご参照ください。

⑩ ▶/⏸(プレイ/ポーズ)ボタン

再生を開始、または再生中の曲を一時停止します。

⑪ ⏮/⏭(スキップ)ボタン

再生中や停止中に前後の曲に移動します。

⑫ ⏪/⏩(サーチ)ボタン

押し続けている間、再生中の曲を早戻し⏪、または早送り▶▶します。

本体のフロントパネルには、この機能のボタンはありません。

⑬ ■(ストップ)ボタン

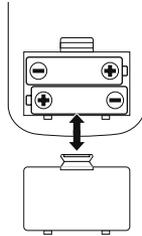
再生を停止します。

リモコンの使用上の注意

- リモコンを操作するとき、リモコン送信機を本機のリモートセンサー部に向けてください。
- リモコンを操作するとき、送信機と本機との間に障害物があると正しく動作しません。
- フロントパネルのリモートセンサー部分に直射日光を当てないでください。誤動作の原因となることがあります。
- 電池が消耗するとリモコンは正しく動作しません。この場合は同じタイプの新しい電池と交換してください。

電池の入れ方

リモコンの裏面のフタを外し、ケースの“+”と“-”表示に合わせて、単4形乾電池2本を入れてください。



電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。

電池の取り扱い

- 乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。
- 乾電池の“+”と“-”の向きを電池ケースに表示されている通りに正しく入れてください。
 - 新しい乾電池と古い乾電池、またはアルカリ乾電池とマンガン乾電池など、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 長期間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、液もれによってリモコンが破損することがないように、電池を取り出しておいてください。
 - 万が一液もれを起こしたときは、ケース内に付着した液をよく拭き取ってから新しい電池と交換してください。

本機は、デジタルフィルターの特性を切り替えて、再生音楽に適した設定を行うことができます。本体のFILTERまたはリモコンのD.FILTERボタンを押して切り替えます。



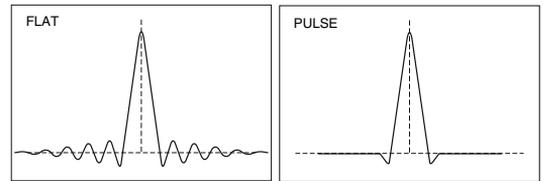
デジタルフィルターを切り替える時に、スピーカーやヘッドフォンからポップノイズが発生することがありますので、切り替えは音量を下げてから行うことをお勧めします。

備考：ディママー機能により表示を“消灯”しているときにFILTERボタンを一度押すと、デジタルフィルターのインジケータは現在の設定のまま“暗い”で点灯します。デジタルフィルターを変更するには、もう一度FILTERボタンを押してください。

FLATは、一般的なD/Aコンバーターでよく用いられるフィルターで、CD再生の場合、通過帯域(20Hz～20kHz)で周波数特性がフラットであり、20kHz以上の信号を直線的にカットするため、帯域外の余分な信号(ノイズ)を強力に抑えることができます。

PULSEは、周波数帯域で異なる伝達速度(位相特性)を同じにすることで、リングング※を抑えCD再生の場合、20kHz近辺で徐々に減衰する周波数特性を持っています。そのため、再生音はFLATフィルターに比べて、より自然に聞こえます。

※FLAT/PULSEのリングングの違い



デジタル信号が回路を通過したときに生じる波打った波形

- デジタルフィルターは、DAC ICが持つ機能のひとつです。AES/EBU, COAX, TOSLINK から出力するデジタル信号には機能しません。

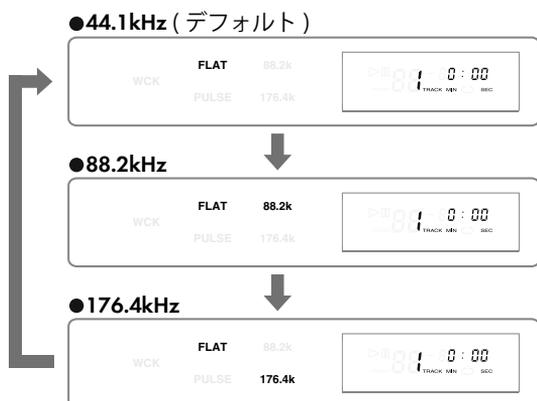
アップサンプリング

CD規格44.1kHz(16bit)のサンプリング周波数を、アップサンプリング機能を使って2倍の88.2kHz(24bit)または4倍の176.4kHz(24bit)へアップサンプリング(拡張)することで、情報量が増し、より滑らかで深みのある再生音が期待できます。

デジタル出力端子に接続する外部のD/Aコンバーターを使用する場合、その入力が88.2kHzまたは176.4kHzのサンプリング周波数に対応していることをご確認ください。対応していない場合、正しく音が出ません。この場合は、対応するサンプリング周波数に切り替えてご使用ください。

使い方

①再生を停止中に、アンプのボリュームを下げてから、本体またはリモコンのUPSAMPLE ボタンを押して、アップサンプリングする周波数を選択します。押すたびに、44.1kHz(デフォルト)⇒88.2kHz⇒176.4kHzへと切り替わり、ディスプレイに88.2kまたは176.4kが点灯します。通常の44.1kHzのときは点灯しません。



②デジタル出力を使用している場合、設定した88.2kHzまたは176.4kHzの出力信号に、接続する外部のD/Aコンバーターが同期していることを確認します(確認方法はD/Aコンバーターの説明書などをご参照ください)。

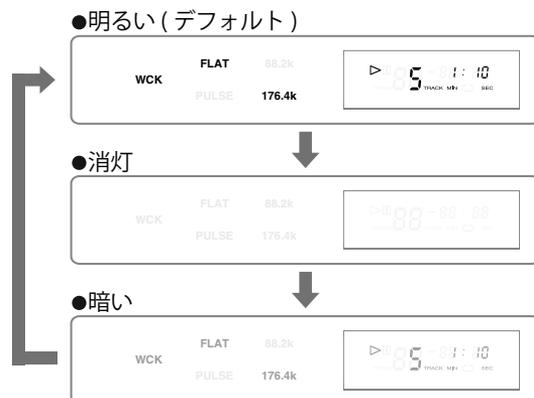
③プレイ/ポーズ▶/||| ボタンを押して、再生を始めます。再生信号は、設定したサンプリング周波数で内蔵するD/Aコンバーター部へ、または外部に接続するD/Aコンバーターへ伝送されます。



再生中に切り替えると、音が途切れ、ノイズが発生したり、誤動作の原因となることがあります。切り替えは、再生を停止して、アンプのボリュームを下げてから行ってください。

ディマー(ディスプレイの明るさを切り替える)

ディスプレイの文字の明るさを3段階に切り替えることができます。リモコンのDIMMER ボタンを押すたびに、下図の順に明るさが切り替わります。



ディスプレイを“消灯”しているとき

□ディスクの交換などでCDドアを開くと、OPEnと機能の現在設定が“暗い”で点灯しますが、CDドアを閉めると再び“消灯”します。

□本体やリモコンのデジタルフィルターやアップサンプリングのボタンを一度押すと、これらの機能は現在設定のまま“暗い”で点灯します。

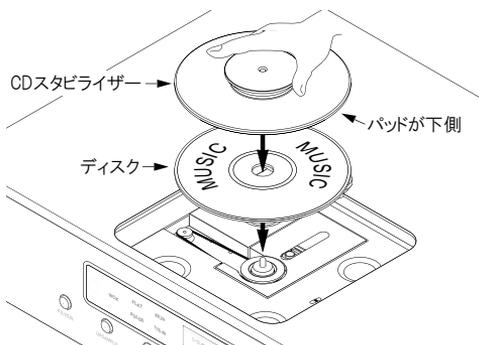
設定を変更するには続けて操作ボタンを押してください。操作ボタンを押さずに約5秒が経過すると、ディスプレイは自動で“消灯”に戻ります。

□設定した明るさに関わらず、電源を入れ直すと、自動的にデフォルトの“明るい”に戻ります。

基本操作

通常再生

- ①電源スイッチを押して電源を入れます。
- ②手動でCDドアを後ろ側へスライドさせて開きます。CDドアが開いているときは、ディスプレイに“OPEn”と表示されます。
- ③CDスタビライザーの上部の縁をしっかりと掴んで持ち上げます。ターンテーブルにディスクを乗せ、その上にCDスタビライザーを静かに戻します。



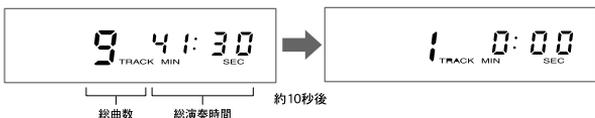
CDドアを閉める前に、ディスクとCDスタビライザーが正しく水平に乗っていることを確認します。傾いている、あるいはCDスタビライザーがディスクに密着していない場合、回転が不安定になり正しく信号を読み取ることができません。このようなときは、指を軽く添える程度にCDスタビライザーの中央を押すなどして、水平に密着するよう修正します。

- ディスクはレーベル面を上にしてターンテーブルに乗せてください。
- CDスタビライザーを乗せないとディスクがターンテーブルから外れ、ディスクの読み取りができない上に、ディスクが傷つくことがあります。CDスタビライザーを乗せ忘れないようご注意ください。
- 指定以外のCDスタビライザーは性能を損なう恐れがありますので、使用できません。



- ④手動でCDドアを前側へスライドさせて閉めます（完全に閉めないとディスクの読み込みができません）。ディスクが回転を始めディスク情報を読み取り、数秒後に総曲数と総再生時間を表示します。

備考：プレイ/ポーズ▶/|| ボタンを押さずにそのままにしておくと、約10秒後に1トラック目の再生待機の表示に変わります。



- ⑤プレイ/ポーズ▶/|| ボタンを押します。再生が始まります。ディスプレイに“▷”とトラックナンバーを表示し、次に経過時間が表示されます。



曲を前後にスキップするとき

再生中にスキップ▶▶ ボタンを押すと次の曲にスキップします。スキップ◀◀ ボタンを押すと再生中の曲の頭に、続けてもう一度押すと前の曲にスキップします。複数曲スキップするとき、スキップしたい回数だけ押します。

一時停止するとき

プレイ/ポーズ▶/|| ボタンを押します。もう一度押すと、再び再生を始めます。

再生を停止するとき

ストップ■ ボタンを押します。

ストップ■ ボタンを押さずにCDドアを開けると再生は停止しますが、ディスクの回転が止まるまで数秒かかります。回転が止まるまではCDスタビライザーとディスクに触れないでください。特に、下方へ強く押さえつけると、ディスクが傷付いたり、回転メカニズムに無理な力が加わり、故障の原因となることがあります。



ディスクを取り出すとき

手動でCDドアを後方へスライドさせて開きます。CDスタビライザーの上部の縁をしっかりと掴み、ゆっくりと持ち上げます。ディスクを取り出します。

CDスタビライザーを勢いよく持ち上げると、同時に密着するディスクも僅かに持ち上がったリ、長時間再生した後など、CDスタビライザーとの密着度が高い場合に、ディスクがCDスタビライザーに付着してくることがあります。ディスクが途中で落下するなどして、傷付かないようご注意ください。

CDスタビライザーをターンテーブルに戻し、手動でCDドアを前方へスライドさせて閉めます。

備考：再生終了後、ディスクはそのままにせず、取り出しておいてください。再生しないときなどディスクをセットしていない場合でも、CDスタビライザーはターンテーブルに乗せておくことができます。

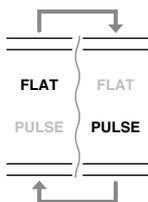


基本操作 (つづき)

デジタルフィルターを切り替えるとき ※注意

再生を停止中に、アンプのボリュームを下げてから、本体のFILTERボタンまたはリモコンのD.FILTERボタンを押します。押すたびに、フラット“FLAT”またはパルス“PULSE”に切り替わり、インジケータが点灯します。

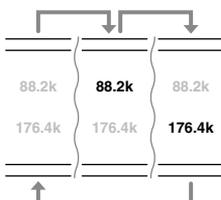
プレイ / ポーズ ▶/■ ボタンを押して再生を始めます。



アップサンプリングするとき ※注意

再生を停止中に、アンプのボリュームを下げてから、本体またはリモコンのUPSAMPLEボタンを押します。一度押すと88.2kHzへ、もう一度押すと176.4kHzへ切り替わり、インジケータが点灯します。さらにもう一度押すと、標準の44.1kHzへ戻り、インジケータは消灯します。

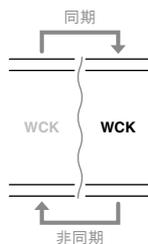
プレイ / ポーズ ▶/■ ボタンを押して再生を始めます。



外部のワードクロックを使用するとき ※注意

再生を停止中に、アンプのボリュームを下げてから、接続する外部のクロック発振器の電源を入れ、44.1kHzのワードクロック信号を入力します。同期すると、ディスプレイの“WCK”が点灯し、そのワードクロックを基準に動作するようになります。

プレイ / ポーズ ▶/■ ボタンを押して再生を始めます。



※注意

これらを再生中に切り替えると、音が途切れ、ノイズが発生したり、誤動作の原因となることがあります。切り替えは再生を停止して、アンプのボリュームを下げてから行ってください。

プログラム再生

曲を登録する

始めにプログラム再生する曲を登録します。登録は、停止状態で行います。

- ① リモコンのPROGRAMボタンを押します。ディスプレイに“PRGM”の表示が出て曲番の“1”が点滅、曲順の“1”が点灯します。



- ② テンキーボタンを押して希望の曲番号を選択します。テンキーボタンを押すだけで自動的に登録されます。

例) テンキーの5を押すと、曲番に“5”が点灯し、曲順1にトラック5が登録されます。次にテンキー3を押すと、トラック3が曲順2に登録されます。



複数の曲を登録するにはテンキーボタンを続けて押します。登録された曲数は、ディスプレイの右側に曲順として表示されます。最大32曲まで登録できます。

- CDに入っている最大トラック数より大きい数値を入力すると自動的に最終トラックが選ばれることがあります。
- 曲順2以降は、スキップ◀◀/▶▶ボタンを押して希望の曲番号を点滅させ、リモコンのPROGRAMボタンを押して登録することもできます。この場合は、希望の曲番号を点滅させた後、その都度PROGRAMボタンを押して登録します。



- ③ ストップ■ボタンを押して登録作業を終了します。順番1に登録した曲番が表示されます。32曲まで登録してある場合、ディスプレイに“FULL”が表示されます。



登録した曲を再生する

ディスプレイに“PRGM”が表示されているときに、プレイ/ポーズ▶/■ボタンを押すと、登録された曲が順番に再生されます。



通常の再生に戻る場合は、停止中にリモコンのPROGRAMボタンを押してプログラムモードを解除(“PRGM”表示が消灯)してから、プレイ/ポーズ▶/■ボタンを押してください。

プログラムモードに戻すには、停止中にもう一度リモコンのPROGRAMボタンを押します。

プログラムの確認、追加、修正と削除

プログラムの確認、追加、修正と削除はプログラム再生の停止状態で行います。

① 確認

CHECKボタンを押すたびにディスプレイにトラック番号と曲順が表示されます。登録された最終曲番号までくると、次は“- -”表示となり、もう一度押すと最初に登録した曲番に戻ります。



※ ストップ■ボタンを押すと順番1の表示に戻ります。

② 追加

プログラムに新しい曲を追加するには、ストップ■ボタンを押し、テンキーで新しい曲番を押すと最終曲に追加できます。ストップ■ボタンを押して、操作を完了させます。

③ 修正

CHECKボタンを押して修正したい曲番を出し、テンキーで新しい曲番を押すとプログラムが上書きされます。ストップ■ボタンを押して操作を完了させます。

④ 削除

- 全曲削除するには、CLEARボタンを2秒以上押し続けます。
- 1曲削除するには、CHECKボタンで削除したい曲番を選択しCLEARボタンを押します。
- 複数曲を1曲ずつ削除する場合は、CHECKとCLEARを繰り返します。
- CDドアを開けたり電源を切ると、登録は全て削除されます。

ベルトのメンテナンス

ベルトドライブ方式のメカニズムに使用している角型ゴムベルトは、定期的な保守・点検は必要ありません。しかし、経年変化で張力が低下すると、ディスクの回転やレーザーピックアップの駆動に影響するため、CD情報の読み取りに失敗したり、再生音にノイズが混入したり、音飛びが発生することがあります。

これらの症状がベルトに起因している場合には、ベルトを交換することで症状が改善します。なお、ベルト以外に原因がある場合には、ベルトを交換しても症状は改善しませんので、お買い上げの販売店または当社サービスまでご連絡ください。

ベルトの交換時期の目安は概ね5年程度ですが、それ以上経過しても正常に動作している間は、交換する必要はありません。

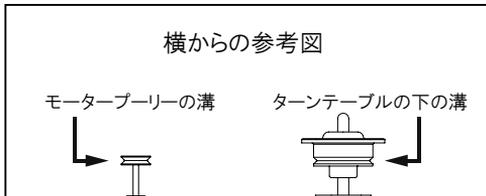
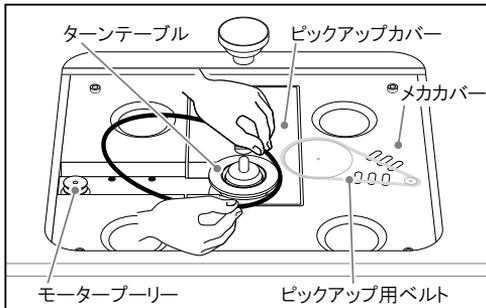
ディスク駆動用スピンドルベルトの交換方法

ディスク駆動用交換ベルトは、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご用命ください。純正以外のベルトは使用できません。

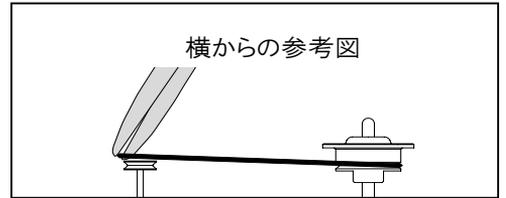
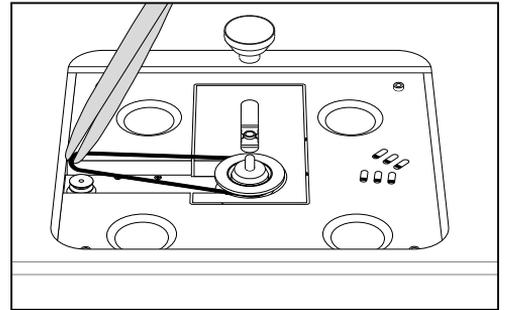
なお、ピックアップ駆動用フィードベルトは、ピックアップカバーとメカカバーの下にありますので、交換はお買い上げの販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。

①古いベルトを取り外します。

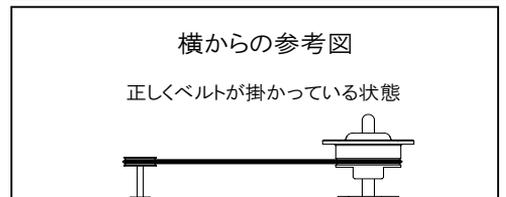
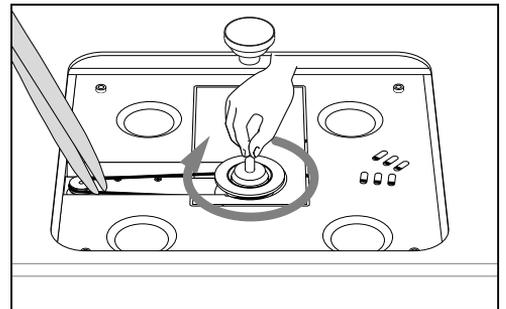
②新しいベルトをピックアップカバーとターンテーブルの隙間に通してから、ターンテーブルの下にある溝にベルトを掛けま



③次にモーターのプーリーの溝に掛けます。ピンセットを使うと比較的に簡単に掛けることができます。



④正しくプーリーの溝にベルトが収まっていることを確認します。また、ベルトがねじれている場合は、修正します。ターンテーブルの中心軸を手で回転させながらピンセットでねじれを徐々に修正すると、ベルト全体のねじれが直りやすくなります。



ベルトドライブCDお取扱いのご注意(まとめ)

① スタビライザーの取扱は丁寧に

重いCDスタビライザーを誤って落として他のものを破損しないようご注意ください。また、CDスタビライザーが変形すると、ディスクの読み取りに支障をきたすことがあります。高価な精密部品です。お取扱には十分ご注意ください。

② スタビライザーをターンテーブルに乗せるとき

CDスタビライザーを乗せるときや外すときは、その中心の穴に対して、ターンテーブルの中心のスピンドルシャフト(軸)が、垂直に入ったり出たりするようにお取扱ください。斜めにすると途中で引っ掛かったり、特に傾いたままディスクに乗った状態になると、正しく読み取りや再生ができなくなることがありますのでご注意ください。

③ 回転が止まるまで手を触れない

再生を停止した直後にCDドアを開くと、慣性によりディスクがまだ回転していることがあります。ディスクの回転が止まるまでは、CDスタビライザーとディスクに触れないでください。特に、下方へ強く押さえつけると、ディスクが傷付いたり、回転メカニズムに無理な力が加わり、故障の原因となることがあります。

④ 光学式ピックアップのレンズに触れない

光学式ピックアップは、CDプレーヤーの性能を決める重要な部品のひとつです。レンズ部分に指などで触れないようにしてください。レンズの表面をきれいに保つために、ご使用にならないときは、CDドアを閉めておいてください。

お手入れの仕方

① 日常的なよごれは

必ず柔らかい布でからぶきするようにしてください。からぶきで取れないよごれは薄めた中性洗剤で湿らせた布で拭き取ってください。洗剤をご使用の場合は最後に必ず水で湿らせた布で拭き取って洗剤分が残らないようにしてください。また本機をベンジン、シンナーなどの揮発油系の液体や化学ぞうきんで拭いたり、クレンザーや漂白剤などを使用しないでください。また近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。

② ターンテーブルに埃が溜まっているとき

セロテープ等で埃を取り除いてください。その際に、光学式ピックアップのレンズ部分に指などで触れないようご注意ください。

③ 定期的な保守・点検

本機の定期的な保守・点検は必要ありません。不具合の際の点検・修理は販売店または弊社サービスセンターにご依頼ください。

故障かな?と思ったら

本機の調子がおかしいと思ったら、サービスをご依頼になる前に以下の内容をもう一度チェックしてください。それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店または当社サービスまでご連絡ください。

症状	対処法
電源が入らない	電源ケーブルを正しく接続する
CDを入れても再生できない	CDスタビライザーを乗せる
	CDドアを完全に閉める
	CDのレーベル面を上にして入れる
	CDをクリーニングする
音飛びがする	振動する場合、設置場所を変える
	CDをクリーニングする
音が出ない	再生を始める
	説明書に従って正しく入出力端子に接続する
	アンプやコンバーターの接続、入力セレクター、ボリュームの位置を確認する
	全ての機器の電源を入れ直す
音が歪む / 音が悪い	指定のケーブルを使う
	接続ケーブルの向きを確認する
ハム音が出る	ピンプラグをしっかりと差し込む
チューナーにノイズが入る	チューナーから離れた場所に設置するか、チューナーの電源を切る
リモコン操作できない	本体の電源スイッチを押す
	リモコンに電池を入れる
	新しい電池と交換する

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ、静電気等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は電源スイッチを押して一旦電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、しばらくしてから再び接続し電源を入れてあらためて操作してください。

保証について

1. この製品には保証書を別途添付しております。保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認のうえで取扱説明書などと一緒に大切に保管してください。
2. 保証期間はご購入日より2年です。保証期間中は保証書の記載内容により、ご購入販売店または弊社が修理いたします。その他詳細につきましては保証書をご参照ください。
3. 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについてご不明の場合は、ご購入の販売店または当社にご相談ください。保証期間経過後、修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料にて修理いたします。
4. この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。

アフターサービスのご依頼について

万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認し、ご購入のお店または弊社サービスセンターにご遠慮なくご相談ください。

1. 型名、型番
2. 故障の内容
3. お買い上げ年月日
4. お名前、住所、電話番号



CEC日本総代理店・修理センター：

有限会社エステック

〒 370-0535 群馬県邑楽郡大泉町寄木戸 287

TEL: 0276-49-5033 営業 marketing@s-tec-co.com

TEL: 0276-49-5036 修理センター service@s-tec-co.com

FAX: 0276-62-8341 共通